

## 4 持続可能性への配慮

### ○基本的な考え方

- ・ 「持続可能性に配慮した運営計画」に則した運営
- ・ 費用対効果及び実行可能性を考え、優先順位をつけながら実効性の高い運営

### ○持続可能性に配慮した運営上の取組

- ・ 「持続可能性に配慮した調達コード」に合致した食材の調達
- ・ 食品廃棄物抑制の重要性についての意識啓発
- ・ 料理の給仕量を調節するポーションコントロール等の食品廃棄物の発生抑制
- ・ 飲食提供の形態（運営特性）や実行可能性も十分に考慮したうえで、可能な限りリユース食器を利用
- ・ リユース食器が利用できない場合、資源化が可能な素材の使用等、リユースに相当するような持続可能性への取組の追求

## 5 将来につなげていく取組

### ○日本の食文化の発信・継承

- ・ 日本の「食」の特徴を活かした提供  
食材や調理を工夫しながら大会各場面で提供し、日本食の特徴や魅力を知ってもらう
- ・ おもてなしの雰囲気  
リラックスして飲食できる空間を提供
- ・ 地域性豊かな食文化  
地域特産物の活用
- ・ 新しい技術や優れた品質等の発信

### ○国産食材の活用（地産地消等）

- ・ 予算の範囲内で国産食材を優先的に活用

### ○飲食による復興支援

- ・ 被災地食材を活用したメニューを提供、高品質の食材を生産できるまでに復興した被災地域の姿を発信
- ・ 被災地食材の安全性の適切な情報発信

### ○飲食提供の取組の他の関連分野への波及

- ・ 大会の飲食提供を通じ、東京や日本全体で、食文化の多様性への配慮がより一層進むことを期待
- ・ 将来を担う世代へのプラスの波及効果を期待

## 6 関係者との連携等

○飲食提供事業者、マーケティングパートナー、行政機関等との連携

○エンゲージメントの推進

## 《農産物》

## 持続可能性に配慮した農産物の調達基準(概要)

### <要件>

- ① **食材の安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② **周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ **作業者の労働安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。

(要件①～③を満たすことを示す方法)

ア **JGAP Advance**、  
**GLOBAL GAP**、  
組織委員会が認める認証  
スキーム

イ **「農業生産工程管理(GAP)の  
共通基盤に関するガイドライン」**  
に準拠したGAPに基づき生  
産され、都道府県等公的機関  
による第三者の確認



### <要件を満たした上で推奨される事項>

・有機農業により生産された農産物

・障がい者が主体的に携わっ  
て生産された農産物

・世界農業遺産や日本農業遺産など国際機関や  
各国政府により認定された伝統的な農業を営む  
地域で生産された農産物

(海外産で、上記要件の①～③の確認が困難な場合)

組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

### <国産を優先的に選択>

(国内農業の振興とそれを通じた農村の多面的な機能  
の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品)

加工

(加工食品)

主要な原材料である農産物が本基準  
を満たすものを、可能な限り優先的に  
調達

**サプライヤー(ケータリング事業者等)**

# 『拡大版SDGsアクションプラン2018』のポイント

政府の  
主要方針

『経済財政運営と改革の基本方針2018』(注1): 積極的平和主義の旗の下、SDGsの実現に向け、人間の安全保障に関わるあらゆる課題の解決に、日本の「SDGsモデル」を示しつつ、国際社会での強いリーダーシップを発揮する。  
『未来投資戦略2018』(注2): 「Society 5.0」の国際的な展開は、世界におけるSDGsの達成に寄与。そのため、企業による取組を支援。

注1、2:平成30年6月15日閣議決定

世界に発信・展開する日本の「SDGsモデル」の方向性 (第4回SDGs推進本部会合で決定)

- 日本は、誰一人取り残さない社会を目指すSDGsの推進を通じて、創業や雇用の創出を実現し、**少子高齢化やグローバル化の中で実現できる、「豊かで活力ある未来像」を、世界に先駆けて示していく。**そのため、**日本ならではの「SDGsモデル」を構築。**
- 日本の「SDGsモデル」を特色付ける大きな柱として、次の三つを掲げつつ、『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組むため、政府の主要な取組を盛り込んだ。『拡大版SDGsアクションプラン2018』では、**主要な取組を含め更なる具体化・拡充を行うとともに、発信を強化。**

## I. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進

- SDGsが掲げる社会課題や潜在ニーズに効果的に対応すべく、**破壊的イノベーション**を通じた「Society 5.0」や、「生産性革命」を実現。
- 経団連「企業行動憲章」の改定を支持し、民間企業の取組を更に後押し。

## II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

- 各地方のニーズや強みを活かしながらSDGsを推進し、**地方創生や、強靱で環境に優しい魅力的なまちづくり**を実現。
- 政府が**一体となって**、先進的モデルとなる自治体を支援しつつ、成功事例を普及展開。

## III. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

- 次世代や女性をエンパワーメント。
- 国内では、「働き方改革」、「女性の活躍推進」、「人づくり革命」などを着実に実施。
- 国際協力では、「人間の安全保障」に基づき、**保健、女性、教育、防災等への支援を推進。**

第4回推進本部会合における指示を踏まえ

日本の技術力を活かし、国際社会で「SDGsのための科学技術イノベーション(STI)」を主導:

- 『SDGsのためのSTIロードマップ』の雛形等を策定、本年6月の国連STIフォーラム(日本が共同議長)等を通じ、ロードマップの重要性・必要性を発信。
- 『**統合イノベーション戦略**』及び『**知的財産戦略ビジョン**』等において、SDGsをハイライト。

SDGs経営やSDGsに資する海外展開を応援:

- 日本企業がフロントランナーとしてSDGsを実現するため、『**SDGs経営推進イニシアティブ**』を推進。

自治体によるSDGs推進モデルを構築すべく、政府一体となって支援:

- 29自治体を「**SDGs未来都市**」に選定。

国際会議・フォーラムの機会を捉え、地方からSDGsの取組を発信:

- **G20サミット・閣僚会合開催地**から、SDGsの取組を推進・発信。
- **2025年万博誘致**でも、SDGs推進を発信。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会をSDGs五輪に:

- 2020年東京オリパラ大会のための『**持続可能な運営計画(第二版)**』の公表。

次世代によるSDGs推進を後押し:

- 「**次世代のSDGs推進プラットフォーム**」の立ち上げを、年末までに準備。

女性の活躍を官民リーダーが力を合わせ主導:

- **WAW!・W20(G20エンゲージメント会合)**を開催。

国内外の「人づくり」のために行動:

- 2019年のG20・TICADに向けて、次世代を含め、**保健・教育分野における取組**を強化。
- 子どもに対する暴力撲滅に関する国際イニシアティブとの政策連携と財政貢献。

アジアで、「ビジネスと人権」を率先:

- 『**国別行動計画(NAP)**』の策定作業を加速化。

個別取組  
・発信

『SDGs実施指針』における8つの優先分野に関し、**SDGsを推進する取組を更に具体化及び拡充**

- SDGsに関する**官民の知見共有プラットフォームの立ち上げ**
- **7月の国連HLPF**において、「日本のSDGsモデル」を発信

# Society 5.0による人間中心の社会

年齢・性別に関係なく皆に恩恵



日々の暮らしが  
ラクラク・楽しく



快適

必要なモノやサービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供



サイバー空間とフィジカル空間  
を高度に融合

活力



質の高い  
生活



煩わしい作業から解放され、時間を  
有効活用

経済発展と社会的課題の解決を両立

より便利で安全・安心な生活



## 活動概要

貢献しているSDGs目標 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 12, 13, 14, 15, 17

- グループ理念「心豊かな共生の社会を創ります」に基づき、2014年度から「**『ほんもの実感！』**くらしづくりアクション」をスタート。持続可能性を追求し、社会のあり方や環境影響、パートナーシップを考慮した商品や、生産から消費、廃棄までを含めた消費行動のことを「ほんもの」と表現し、社会に行動を呼びかけ。
- 具体的には、①商品や背景を理解し、**価格だけではない社会性や環境面の価値によって商品を選択**、②生産者やメーカーと直接触れ合える機会を増やし、**作り手の思いを共有**する、③作られた商品を**感謝の気持ちで無駄なく消費**し、食料廃棄を減らす等を推進。
- その多くが女性会員である生協組合員や職員等が、**民主的かつ実効的に運営**。

## SDGs実施指針における実施原則(本アワード評価基準)

**普遍性:** 海外からの積極的な視察受け入れ、現地農業生産者の自立支援。

**包摂性:** ボードメンバーの半数、理事長の9割が女性。女性の社会参加を促進。各種災害時も産直産地との取引を継続。

**参画型:** 商品の学習会を約300会場で開催し、13万人の参加。組合員の声に基づく113の商品を供給。

**統合性:** 産直産地で、企画外となった産品を有効活用して、加工品を多数(現在405品目)開発。

**透明性と説明責任:** 生産者と消費者が産地で生産状況を確認する「公開確認会」を実施、定期的な情報発信。

▼市民団体による女性支援活動への助成金



貢献している  
SDGs目標茶産地育成事業: 2, 8, 12  
他事業: 4, 7, 9, 12

## 活動概要

- 主力事業である緑茶事業などで、「茶畑から茶殻まで」の一貫した生産体制を構築して、SDGsの目標12「持続可能な生産と消費」など、幅広い目標に貢献。
- 特に、①代表的な事業である茶産地育成事業(新産地事業)、②茶殻リサイクルシステム、③健康配慮商品、④厚生労働省認定のティーテイスター社内検定(働きがい向上)、⑤おいお茶新俳句大賞(政府が推進する「beyond 2020プログラムとして認証」、⑥「お茶で日本を美しく。」プロジェクトなどの取組により、調達から製造・物流、商品企画・開発、営業・販売の一貫体制(バリューチェーン)全体で価値創造をし、SDGsに取り組んでいる。

## SDGs実施指針における実施原則(本アワード評価基準)

**普遍性:** 茶産地育成事業を九州5県に拡大し、オーストラリアでも展開するなど、普遍性が高く応用可能なビジネスモデル。

**包摂性:** 茶産地育成事業は、地域での女性活躍・後継者・新規就農者・高齢者の活用など幅広い包摂性を有する。

**参画型:** 茶産地育成事業では、農業技術部が主体となって、様々なステークホルダーと連携・協力関係を構築。

**統合性:** 茶産地育成事業では、原料調達コストの低減、環境保全型農業及び地域雇用の創出など経済・環境・社会の要素が統合されている。

**透明性と説明責任:** 社内において各取組を定期的にチェックし、レポートやホームページでその内容を公開している。

伊藤園はSDGsの達成に向けて、茶産地育成事業を中心に、環境・社会・経済の3つの分野で取り組んでいます。この取り組みを通じて、SDGsの達成に貢献しています。



# 独自のビジネスモデル

## ESG に対応するバリューチェーン



**調達**



**ESGと価値連鎖**

- 茶産地育成事業
- S** 持続可能な農業
- S** 雇用の創出
- E** 環境保全型農業

**主に関連するSDGs**



**価値創造を支える基盤**



コーポレート・ガバナンス/リスクマネジメント/コンプライアンス/サプライチェーンマネジメント/人権の尊重/人材マネジメント/財務マネジメント

**製造・物流**



**茶殻リサイクルシステム**

- E** 持続可能な資源利用



**商品企画・開発**



**健康配慮商品**

- S** 健康に資する商品



**営業・販売**



**環境配慮型営業車**

- E** 気候変動対応 温暖化防止
- S** 地域社会や 環境と調和した サステナブルモビリティ

**お茶のいれ方セミナー**

- S** お客様への知識の 提供、茶文化
- S** 日本のお茶新俳句大賞
- S** 日本の伝統文化の 伝承、教育での活用

**「お茶で日本を美しく。」**

- S** 文化保存
- E** 環境保全 水循環・ 生物多様性の保全
- S** 「お〜いお茶と おにぎりアクション」 (TABLE FOR TWOとの取組み)



# 新たな価値の事例（ものづくり）

## 課題

- ・ニーズに対応した設備投資
- ・在庫過多
- ・人材の確保
- ・経費削減
- ・被災時等の対応



## 産業のバリューチェーン強化

ニーズに対応したフレキシブルな生産計画・在庫管理

AIやロボット活用、工場間連携による  
・生産の効率化、省人化  
・熟練技術の継承(匠の技のモデル化)  
・多品種少量生産

異業種協調配送、トラック隊列走行による効率化

特注品が安価で入手  
納期遅れなし

サプライヤー

工場

物流

顧客



競争力強化・災害対応



人手不足解消・多様なニーズ対応



GHG排出削減・人手不足解消



顧客満足度向上

# 新たな価値の事例（医療・介護）

## 課題

症状が悪くなる前に  
知りたい。要介護でも  
自分一人で楽しく  
生活したい。



負担削減



## 快適な生活

ロボットによる生活  
支援・話し相手

健康寿命延伸  
治療費削減



## 健康促進

リアルタイムの自動健康  
診断・病気の早期発見

output

健康寿命  
延伸



## 最適治療

生理・医療データの  
共有による最適治療

負担軽減  
社会コスト軽減



## 負担軽減

医療現場でのロボット  
による介護支援

# 新たな価値の事例（エネルギー）

## 課題

- ・エネルギー不足の可能性
- ・需要に対応した安定供給
- ・CO2排出増による環境問題
- ・被災時に供給が滞る



# 新たな価値の事例（防災）

## 課題

- ・個人に合った避難情報の提供
- ・迅速な被災者の救助
- ・避難所へ必要な支援物資を適時に届ける



人工衛星・地上の  
気象レーダーなど  
からのデータ

ドローンによる被災地観測、建物センサーから  
の被害情報・車からの道路の被害情報



避難所の情報・  
救援物資の情報

解析

AI 人工知能

output



## 安全な避難

個人のスマホに避難情報が提示され、安全に避難所まで移動



## 迅速な救助

アシストスーツや救助ロボットにより被災した建物から救助



## 物資の最適配送

避難所にドローンや自動配送車により救援物資が配送

## Ⅱ [1] 2-1 AI時代に求められる人材の育成・活用①

### 課題

AI時代に求められる、「AI・データを理解し、使いこなせる力」と「AIが代替できない能力」（課題設定・解決力等）を兼ね備えた人材を、質・量の両面で十分に育成・確保。

### 目指すべき社会



子供たちの高い理数能力を更に伸ばし、AI・IT人材が社会のあらゆる分野で活躍。

#### ① 小学校から大学まで充実した理数・情報教育

- ・学校教育を通して、AI・ITに関する基礎的な力（理数、情報、データサイエンス等）を身につけることができる。
- ・実践的なAI専門人材が、全国の大学等で学部等の縦割りを越えた「学位プログラム」等を通じて育成される。

#### ② AI等を学んだ人材が社会で活躍

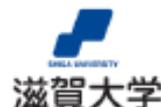
- ・内外の優秀な人材が、企業等において諸外国と遜色ない高待遇で積極的に確保・活用される。
- ・大学等のリカレント教育により、社会人がAI等に関する最先端の知識・技能等へ容易にアップデートできる。

### 先進的な取組・事例

日本初のデータサイエンス学部（平成29年開設）

#### 滋賀大学

- ・データサイエンス教育研究センターを設置し、データサイエンス教育を全学で実施。



【外部講師による授業】



【PBL演習】



enPiT-Pro



【代表校：北九州市立大学】

- ・特色ある産業の社会人を対象に、人工知能やロボット技術などの新しい技術を身に付ける実践的な教育プログラムを提供

【代表校：早稲田大学】

- ・超スマート社会を国際的にリードするイノベティブ人材を育成するAI・IoT・ビッグデータ技術分野のビジネススクールとしての社会人学び直しプログラム



## Ⅱ [1] 2-1 AI時代に求められる人材の育成・活用②

### 今後の取組



#### 1. 文系理系を問わず、理数の能力を高める

##### 教育内容の充実

- ・小学校から高校まで外部人材の活用など統計教育・情報教育を抜本強化
- ・学校のICT環境整備を加速化  
(平成32年度まで)

##### 大学入試改革

- ・大学入学共通テストにおいて、国語、数学、英語のような基礎的な科目として「情報」の追加を検討  
(平成36年度～)

##### 全学での取組

- ・文系も含め全学的に数理・データサイエンス教育を履修する大学を全国的に拡大 (平成31年度～)

#### 2. 大学等における実践的なAI・IT人材育成を拡大

##### 柔軟なプログラム

- ・工学と理学の融合 (AI分野等) など、学部・学科の縦割りを越えた人材育成を行う「学位プログラム」を実現  
(平成32年年度～)

##### 実践的なAI教育

- ・専門人材等の育成拠点の取組を展開
- ・官民コンソーシアム等を通じて、インターンシップやPBL等の実践的な産学連携教育を拡大  
(平成30年度～)

#### 3. 産業界等でAI・IT人材を活用拡大

##### AI人材最適活用

- ・老朽化したITシステムの保守・運用からIT人材を解放し、リカレント教育及び人材の最適活用を促す
- ・企業、大学等で、AIをビジネスやイノベーションに活用できる組織づくりと、内外の優秀な人材へ海外と同程度の待遇実現を促進

##### AIスキル標準化

- ・全ての社会人に求める「ITリテラシー」基準を策定・試験化し、企業の採用選考や処遇への反映を促進  
(平成30年度～)

##### リカレント教育

- ・大学等でAI・IT分野等での実践的なリカレント教育を拡大

# 農林水産省のビジョンステートメント

---

わたしたち農林水産省は、

いのち

生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を  
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、

常に国民の期待を正面から受けとめ

時代の変化を見通して政策を提案し、

その実現に向けて全力で行動します。